

【参考】令和5年度「外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業」 地域における日本語教育の質の維持向上に向けた新たな取組について その1

従来の取組に加え、以下の取組を行い「地域における日本語教育の質の維持向上」を目指す
都道府県・政令指定都市等に対し補助率加算（最大3分の2）

- 「日本語教育の参照枠」に基づく「生活Can do」を用いた「生活」に関する日本語教育プログラムの提供を目的とした取組を含む計画を支援
 - ・「日本語教育の参照枠」及び同参照枠に基づく「生活Can do」を活用し、その理念を踏まえた日本語教育
 - ・「地域における日本語教育の在り方について（報告）」で示されるレベル・時間数に応じた体系的な日本語教育

○地域における日本語教育の在り方について（報告）

（令和4年11月 文化審議会国語分科会）より抜粋

【生活Can do】「日本語教育の参照枠」を踏まえた「生活者としての外国人」対象の言語能力記述文（Can do）(A1からB1レベル)

No.	言語活動	カテゴリ	レベル	Can-do	生活上の行為の事例				
					大分類	中分類	小分類	事例1	事例2
1	読むこと	世情を把握するために読むこと	B1	適切な医療機関を選ぶために、病院のサイトなどの、ある程度長い文章に目を通して、診療科目や診療内容など、必要な情報を探し出すことができる。	I健康・安全に暮らす	O1健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	選択する病院を知る
2	発表	長く一人で話す：経験談	B1	体調が悪く、医療相談窓口で電話したときに、相談員に自分の症状や症状の変化について、順序だてて説明することができる。	I健康・安全に暮らす	O1健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	症状の変化を説明する
3	読むこと	世情を把握するために読むこと	A1	健康診断や定期検診などで指定された病院のホームページにアクセスし、診察日や時間を確認することができる。	I健康・安全に暮らす	O1健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	開院時間を確認する
4	やり取り	店や公共機関でやり取りをする	A2	電話で病院や歯医者の予約をするとき、ゆっくりとはっきりと話されれば、名前や電話番号、日時、診察理由など病院のスタッフの質問に答えることができる。	I健康・安全に暮らす	O1健康を保つ	(O1) 医療機関で治療を受ける	適切な医療機関の選択をする	予約を申し込む

【学習時間の目安】

地域における日本語教育で想定される自立した言語使用者（B1レベル以上）の学習時間

到達レベル	想定学習時間
0～A1レベル	100～150時間程度
A1～A2レベル	100～150時間程度
A2～B1レベル	150～220時間程度
B1～B2レベル	350～550時間程度

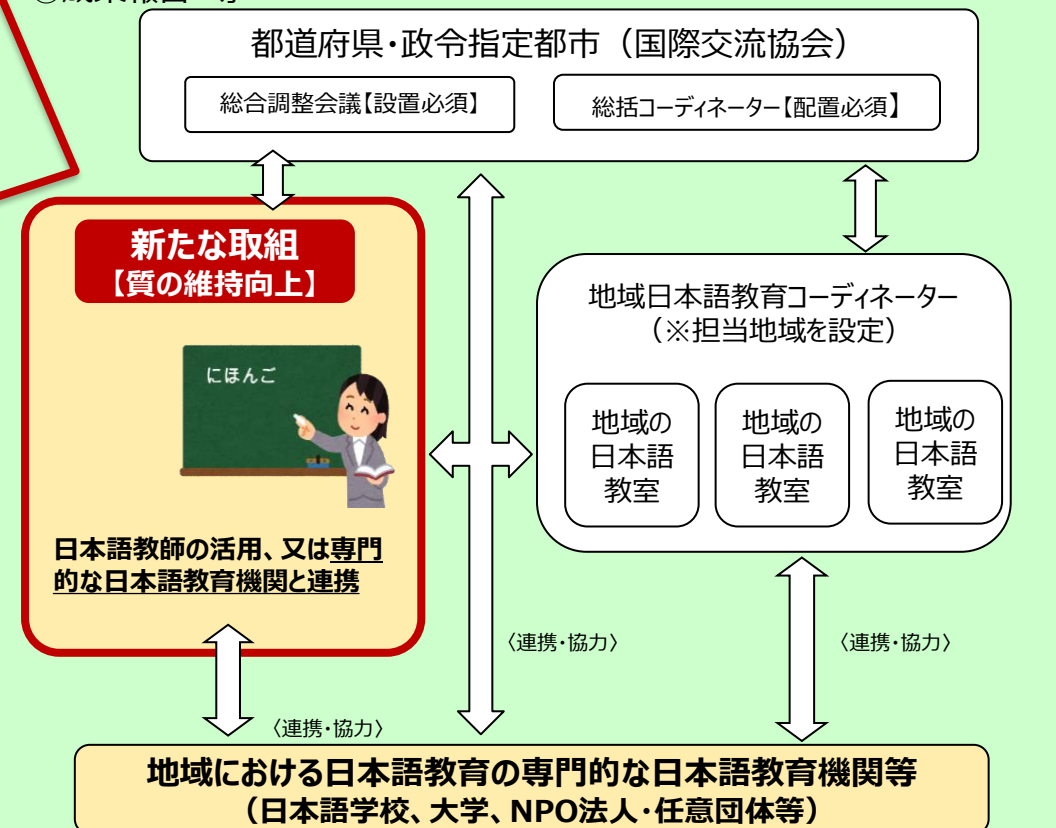
総学習時間（1日4コマ、週3～5日程度の集中的な学習を想定）

- ◎ 0～B1レベルまで 350～520時間程度（470～780単位時間程度（1単位時間45分））
- <参考> 0～B2レベルまで 700～1070時間程度（933～1426単位時間程度（1単位時間45分））

具体的な内容とイメージ図

日本語教師の雇用や活用、専門的な日本語教育機関等との連携による、「生活Can do」を用いた「生活」に関する日本語教育プログラム開発・提供のための

- ①調査や計画策定、②プログラムの開発・実施・試行、③教材開発や評価の開発、教材作成、④研修の受講や実施⑤成果報告等





・「生活Can do」を活用した教育内容整備による到達レベルの担保

※～B1、五つの言語活動を含むプログラム開発

・教育課程の複数年開発可能
・オンライン可能
・オンデマンド可能
・文化庁委託事業で開発中の教育モデルを活用可能

・日本語教室の実施箇所拡大
・日本語教育人材の発掘・拡大
・日本語教育の理解促進 等

① 日本語教育の全国展開・学習機会の確保【従来】

各地域での日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを目的とした取組

○想定される取組(例) ※Ⅰは必須

Ⅰ 広域での総合的な体制づくり

① 総括コーディネーター経費の設置

② 地域日本語教育コーディネーターの配置

Ⅱ 地域における日本語教育の水準向上(域内での日本語教育の展開)

Ⅲ 都道府県等を通じた市町村等支援(間接補助)



② 質の維持向上【新規】

「日本語教育の参照枠」に基づく「生活Can do」を用いた「生活」に関する日本語教育プログラムの提供を目的とした取組

○想定される取組(例) ※Ⅱは必須

Ⅰ 調査や計画策定

Ⅱ 「生活」に関する日本語教育プログラムの開発・実施・試行

A1、A2のクラス実施(共に下限100時間)

B1のクラス実施(下限150時間) 等

Ⅲ 教材開発や評価の開発、教材作成費用

Ⅳ 日本語教育プログラムの開発・編成・試行するための研修の受講や実施、成果報告

Ⅴ Ⅱ～Ⅳを行うことのできる日本語教師の雇用や活用

①と②の関係…有機的に連携した取組例



総合調整会議

①の総合調整会議で、体制づくりの議論に加え、②の「生活」に関する教育課程設置または連携に向けた調査や計画策定について協議。



カリキュラム開発・編成

①の総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーターを中心に、②の日本語教師、外部有識者とともに、カリキュラム開発・編成に当たる。

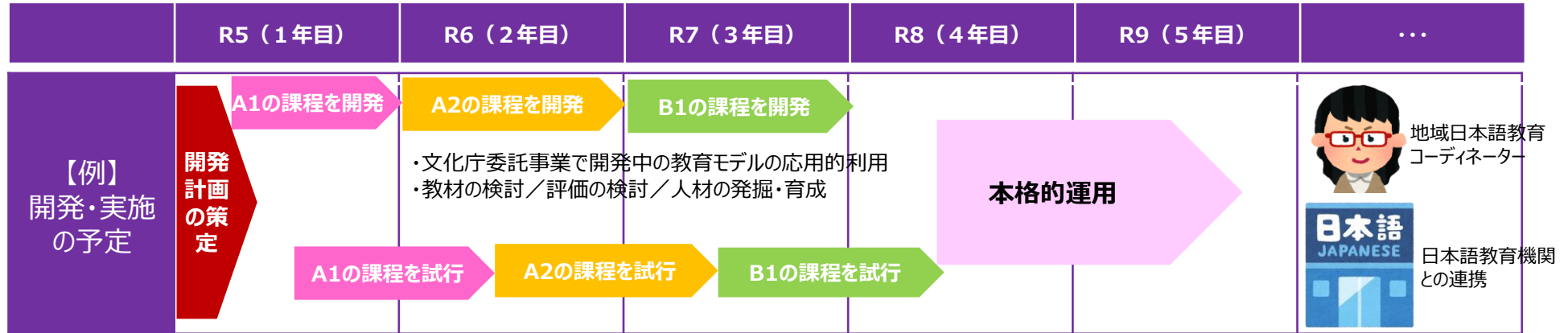


域内への普及

②で開発したカリキュラム等は、①の地域日本語教育コーディネーターによって、②Ⅳの研修等を踏まえ、①Ⅱ、Ⅲの地域の日本語教室にも普及することを想定。

【①従来の取組】+【②新規の取組】を含む事業 → ②を実施する団体に対する補助率加算(最大3分の2)

【参考】令和5年度「外国人材の受入れ・共生のための地域日本語教育推進事業」
 地域における日本語教育の質の維持向上に向けた新たな取組について その3 【開発・編成・試行イメージ】



0 広域での総合的な体制づくり

総括/地域日本語教育コーディネーターの配置
 【日本語教育機関との連携】

1 モデルカリキュラム/ツールの活用

- 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業の「生活」分野の教育モデル
- 日本語能力評価ツール「にほんごチェック！」を活用

2 「生活」の教育課程を設計・試行

- 複数年度の段階的な設計・施行
- オンライン活用 ○オンデマンド活用 (つなひろ等)

オンラインを活用した効果の高い教育

オンデマンドを活用した効率的な教育

コースの例(1) 学習時間:3時間(4単位時間)×3日/週9時間(12単位時間)
 2年間計576時間(768単位時間)

年	月	学習期間・時間	レベル
1年目 288時間 (384単位時間)	4~6月	8週間:72時間 (96単位時間)	1年目開発 A1 聞く(聴く) 読む(読む) 話す(話す) 話す(話す) 書く(書く) 文字
	7~9月	8週間:72時間 (96単位時間)	
	10~12月	8週間:72時間 (96単位時間)	
2年目 288時間 (384単位時間)	1~3月	8週間:72時間 (96単位時間)	2年目開発 A2 聞く(聴く) 読む(読む) 話す(話す) 話す(話す) 書く(書く) 文字
	4~6月	8週間:72時間 (96単位時間)	
	7~9月	8週間:72時間 (96単位時間)	3年目開発 B1 聞く(聴く) 読む(読む) 話す(話す) 話す(話す) 書く(書く) 文字
	10~12月	8週間:72時間 (96単位時間)	
	1~3月	8週間:72時間 (96単位時間)	
	4~6月	8週間:72時間 (96単位時間)	

※1単位時間は45分

「地域における日本語教育の在り方について(報告)」(文化審議会国語分科会)より